

### 第35回 容量市場の在り方等に関する検討会 議事録

#### 1. 開催状況

日時：2021年12月24日（金） 10:00～10:50

場所：Web会議

出席者：

秋池 玲子 座長（ボストンコンサルティンググループ マネージング・ディレクター&シニア・パートナー）  
秋元 圭吾 副座長（公益財団法人地球環境産業技術研究機構 システム研究グループリーダー・主席研究員）  
安念 潤司 委員（中央大学法科大学院 教授）  
小宮山 涼一 委員（東京大学大学院工学系研究科 准教授）  
林 泰弘 委員（早稲田大学大学院先進理工学研究科 教授）  
松平 定之 委員（西村あさひ法律事務所 パートナー）  
松村 敏弘 委員（東京大学 社会科学研究所 教授）  
圓尾 雅則 委員（S M B C日興証券株式会社 マネージング・ディレクター）  
穴井 徳成 オブザーバー代理（東京電力ホールディングス株式会社 経営企画ユニット系統広域連系推進室長）  
伊藤 英臣 オブザーバー（東京ガス株式会社 電力事業部 担当部長）  
加藤 英彰 オブザーバー（電源開発株式会社 執行役員 経営企画部長）  
上手 大地 オブザーバー（イーレックス株式会社 経営企画部長）  
紀ノ岡 幸次 オブザーバー（関西電力株式会社 エネルギー・環境企画室 企画担当部長）  
上坂 喜人 オブザーバー（伊藤忠エネクス株式会社 電力・ユーティリティ部門 電力需給部 部長）  
竹廣 尚之 オブザーバー（株式会社エネット 経営企画部長 兼 需給本部長）  
松野 泰 オブザーバー（送配電網協議会 電力技術部長）  
水町 友紀 オブザーバー代理（電力・ガス取引監視等委員会事務局 取引監視課 課長補佐）

欠席者：

鶴田 将範 オブザーバー（電力・ガス取引監視等委員会事務局 総務課長）  
下村 貴裕 オブザーバー（資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 政策課 電力産業・市場室長）

議題：

容量市場メインオークション約定結果について  
配電事業者における容量拠出金の整理を踏まえた対応について

資料：

（資料1）議事次第  
（資料2）委員名簿  
（資料3-1）容量市場メインオークション約定結果（対象実需給年度：2025年度）  
（資料3-2）容量市場について（第60回 総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 電力・ガス基本政策小委員会 制度検討作業部会資料）  
（資料4）配電事業者における容量拠出金の整理を踏まえた対応について

## 2. 議事

### (1) 容量市場メインオークション約定結果（対象実需給年度：2025年度）

- 事務局より、資料3-1、3-2に沿って、容量市場メインオークション約定結果（対象実需給年度：2025年度）と来年度以降のオークションに向けた検討について報告が行われた。

[主な議論]

(小宮山委員)

様々な情報が得られて今後の検討に有益な情報であると認識している。今回のオークション結果を踏まえると、例えば、北海道や九州では全国での供給信頼度を超過して分断処理が行われて、他エリアに比較してもエリアプライスが高くなる等、各エリアの相対的な状況の認識等ができたと認識する。また、29ページの期待容量と応札容量の減少量の背景も良く分かった次第である。また、約定価格の全体的なトレンドに関しては、第1回容量市場の約定結果に比べて、今回は低下する結果になったと認識する。但し、第1回から第2回にかけて、ルールを一部変更しているため、前回と今回の約定結果を一概に比較して、供給力の状況を正確に理解することは難しい部分もあると考える。約定価格の供給力の状況を表す価格シグナルとしての一定の役割もあるかと思うので、供給力の状況にどのような変化が生じているのかを理解することも、簡単ではない部分もあると考える。過去の検討会において、容量市場にて十分な回数オークションを行い、検証が行われた段階を目安に定期的な包括的な検証を5年毎に行う方向性も示されているので、今後のルールの変更は必要最小限としながら、約定価格やその他の指標を可能な限り一定のルールの下で着実に積み上げながら、今後の包括的な検証と制度の見直しに役立てることも大事であると考えている。

(松村委員)

既に別の委員会で発言しており重複で申し訳ないが、今回の結果に関しては、発動指令電源が0円の部分が3%超過したことに関して、これほど多く応募していただいたことに関して感謝する。一方で、この3%により落札できなかったDRが出てきたことに関して、DRの発展が今後益々必要となるのに、そのブレーキになったのではないかと懸念している。この容量市場に関しては、今回の改正で一定割合は追加オークションに回すことになり、そこでDR枠は1%取っていることからして、追加オークションがあれば、もう一度応募していただきたいが、若干懸念しているのは以前に本検討会で整理したものであるが、（追加オークションの判断基準について）案が2つあった中で、比較的追加オークションをしない方向となった。それでも事前の予測では追加オークションがなくなることは通常はないという感想を持っていたが、今回の結果を見て、場合によっては追加オークションがなくなるとすると、そのときの影響は甚大だと考え、今回の結果を見てその点について若干懸念した。もしも、万が一そのようなことがあり得るとすると、3%、1%と分けたことは本当に良かったのだろうか。決めたときは合理的であると思ったが、追加オークションがなかった場合には、本来4%まで大丈夫と確認されているにも関わらず、3%を上限にしたことになりかねないので、その点については今後本検討会なのか、資源エネルギー庁の委員会なのか、どこかで検討していただきたい。

今回、マルチプライスオークションに移行する部分の倍率は、1.5倍にして、その通り適切に運営していただいたので問題ないが、早速表れてしまい、両端の会社でそのようになってしまったことを踏まえて、マルチオークションに移行するthresholdは1.5倍で良かったのか。更に低い方がより適切なのか、或いは高い方が適切のかも含めて、次回以降の課題の一つとして認識し、資源エネルギー庁か或いは本検討会のどちらかで議論していただきたい。

(上手オブザーバー)

今回の結果は2020年度を踏まえた様々な見直しにより、ようやく供給力の価値について、しっかりとした議論できる土台ができたと認識している。毎年の価格変動がこんなに大きいので、何もしなければ電源側、小売側の収益インパ

クトが大きく変動すると考える。電源側については、予見性の確保の為に別の委員会で議論している新設電源の棲み分けが必要であると考え、我々のような小売側はこのような毎年のコスト変動を念頭に入れた料金設定の考え方が非常に大事になるので、来たる 2024 年、2025 年に向けて準備を進めたいと考える。

(加藤オブザーバー)

まず、これまで容量市場のオークションについて、広域機関には大変な尽力をいただいたことに感謝申し上げます。そのうえで、前回のオークションと今回では非常に大きな価格変化があったと受け止める。今回これほど大きな価格変化があった要因として、どのようなものが大きかったのか。需給によるものやルール変更によるものが大きいのか、分析をきちんとする必要があると考える。市場の取引、価格のトラックレコードを積み重ねていくことが何より重要だと考えているので、過度なルール変更を都度行うのは適当ではないと考える。とはいえ、ルール変更は慎重に行うべきと思っているが、本制度の趣旨に立ち返り最低限の必要な見直し議論はお願いしたい。

(秋元委員)

加藤オブザーバーのご意見に同感である。基本的に市場なので価格が変動するのは当然であり、長期間で見てどうなのかが重要なので、あまり制度変更を頻繁にするべきではないと考える。そのうえでどのような要因が影響したのか、それが本当に妥当な仕組みなのか検証をすることが必要であり、積み重ねることによって妥当なところへ収斂していくと考えるので、いずれにしても至近の需給状況からすると、これほど安くて良いのかと考えてしまうので、手間がかかるかもしれないが、検証をしていただくことは重要である。しかし、何でもすぐに制度を変えることを前提にするわけではなく、しっかりと注視したうえで、どういうことかを詰めていくことが重要である。

(秋池座長)

今回の約定結果や、委員及びオブザーバーよりいただいたご意見などを踏まえて、事務局には、資源エネルギー庁と連携しながら、次回以降のオークションに向けた検討を進めていただく。

## (2) 配電事業者における容量拠出金の整理を踏まえた対応について

○ 事務局より、資料4に沿って、配電事業者における容量拠出金の整理を踏まえた対応について説明が行われた。

[主な議論]

(林委員)

今後、分散型エネルギーシステム、カーボンニュートラルにも紐づいて、EV 等含めて色々なリソースが入ってくるなかで、容量市場のかいせつスペシャルサイトの運営等は広域機関にとって非常に重要だと考えており、賛同する。今後とも事業者含めて国民に分かり易いように発信していただきたい。

(秋池座長)

配電事業者の容量拠出金の扱いについて、事務局にはこれまでも尽力いただいたが、引き続き周知を進めていただく。

(事務局)

議題 1 に関して色々なご意見いただき感謝する。今回は 2 回目ということもあり、2 年前からすると色々なことを踏まえて、新たに見えてきた部分もある。松村委員よりご指摘いただいた通り、かつては起こるか起こらないか分からないな

かで議論していた部分が実際に起きた部分もあるので、そのようなものに関して何があったのかを見ていくことが大変重要であるとする。検証というご意見もいただいたが、今回お示したのも、何があったという意味での検証そのものでもあったと考えている。当然このような中では色々な検討すべき面があると思うので、こうした形で色々なことをお示しながら、2022 年度に向けてまた進めていきたいと考えているので、ここから次のオークションに向けて皆様のご協力をお願いします。松村委員よりご意見いただいた追加オークションについては、第 33 回の本検討会で議論させていただいているところで、引き続き内容を詰めていくところ。容量市場そのものは、ここから実効性テストや、作業停止もあり、また実需給も近づいているので、そのような議論も含めてオークションと実務の話についてこれからも検討をお願いします。

以上